

身近な話題 地域のニュース

県が住民同意書提出求め一時暗礁

障害者施設、3カ月遅れ開所

富岡 保護者ら50人が見学会

富岡市後夙の社会福祉法人「土州水土舎」（金谷透代表）が30日、完成したばかりの知的障害者更生施設「ムゲン」の見学会を開いた。計画段階で、県が本来不要な「地元住民の同意書」の提出を求め一時暗礁に乗り上げていたため、予定より3カ月遅れてのオープンとなった。

見学会には保護者ら約50人が参加。水土舎自治会の田村真紀子会長（41）は「知的障害者への地元への理解が進むとうれしい」と理解を求め、後夙地区の山内信相長（52）は「完成したからには応援したい」と語った。同施設は18歳以上の重

度知的障害者が生活訓練を行う施設で、県内で37カ所目。男女18人が利用予定という。

県は06年6月「住民の同意を得られていない」と補助金の交付を保留。事態を知った国が「同意書は障害者への差別感情

を刺激する」と取り消しを求めたため、県は同年10月に交付を決めた。県障害政策課によると当時、厚生労働省の出先機関・関東信越厚生局からの指示に基づき同意書を要求したという。

【鈴木敦子】



水土舎の既存の施設の横に新設された「ムゲン」。地元住民らが内部を見学した＝富岡市後夙で